

2018年02月20日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【米国株式市場は、だいぶ落ち着きを取り戻した様子ですが・・・】

米国株式市場が大きく下落したことをきっかけに、さまざまなマーケット(市場)が、右往左往しています。

ニューヨーク・ダウは、先月下旬(2018年1月26日)に、最高値26,600ドル(正確には、26,616.71)を付けています。

2月9日のニューヨーク・ダウは、一時、23,500ドルを割り込みました。

この時点で、3,000ドル以上の下落を見ているのですから、1割(10%)以上の急落を見た、と言えます。

昨日(2月19日)のニューヨーク市場は休場でしたが、先週末(2月16日金曜日)のニューヨーク・ダウ終値は、25,219.38ドルだったので、23,500ドルと比べると、約1,700ドル上昇しています。

つまり、3,000ドル以上の下落を見て、1,700ドルリバウンドしたのですから、おおよそ半分、回復した、(=半値戻した)と言えます。

この半値戻しで、マーケットは、だいぶ落ち着きを取り戻した雰囲気です。

+++++

今回の米国株式市場の大幅な急落は、日本の株式市場に大きく影響を与えて、日経平均株価も大幅な急落を見えています。

しかし、ニューヨーク・ダウがリバウンドしたことで、目先の日本の株式市場も落ち着きを取り戻している、と感じます。

今回の米国株式市場の大幅な急落は、さまざまなマーケット(市場)に大きく影響を与えました。

米国株式市場が大きく下落したことで、それぞれのマーケットの参加者に、「リスク回避(リスク・オフ)」の思惑が強いのだ、と考えます。

つまり、米国株式市場が大幅に急落した際に、これからどのような影響が出てくるか、分からないので、さまざまなマーケット(市場)で、とりあえず、持っていたポジションを解消する、もしくは、縮小する、といった行動に出た、ということです。

+++++

その結果として、外国為替市場では、チグハグな値動きになった、と感じます。

例えば、今年(2018年)に入ってからユーロ/ドルは、上昇傾向にありました。

つまり、「ユーロ高米ドル安」傾向であったのですが、米国株式市場の大幅な急落をきっかけに、「ユーロ売り米ドル買い」に推移しています。

それに対して、ドル／円は、年初から「ドル安円高」傾向にあったのですが、米国株式市場の大幅な急落をきっかけに、「米ドル売り円買い」に推移しています。

外国為替市場の値動きに、整合性が無い、と感じます。

さまざまなマーケット（市場）の、それぞれの市場参加者が、米国株式市場の大幅な急落で、パニックになったことが、その理由だろう、と推測しています。

+++++

先に述べた通りに、ニューヨーク・ダウが半値戻しをしたので、マーケットは、だいぶ落ち着きを取り戻した雰囲気ですが、まだ、油断は禁物だ、と考えています。

ニューヨーク・ダウの下落は、まだ始まったばかりで、今後、さらに大きく下落する可能性も十分に高い、と考えるからです。

ニューヨーク・ダウが、もっと緩やかなスピードで下落する可能性もある、と考えています。

+++++

現状の外国為替市場は、外国為替市場だけを見ている、先が読めない、と考えています。

つまり、引き続き、米国株式市場を見ないと、外国為替相場が判断できない状況になっている、と考えます。

（この状況下では、外国為替市場に主体性が無い、と考えます。）

+++++

（2018年02月20日東京時間15:30記述）